

2025 年 11 月 24 日 発行

第24号

工務部会 こうむ NEWS

J R東労組(東日本旅客鉄道労働組合)
工 務 部 会
東京都渋谷区千駄ヶ谷 5-24-1
代々木総合事務所 5 階
NTT 03-5315-0941 JR 058-4112
発行人 杉本博輝 発行 編集委員会

第1回 電力関係職場意見交換会を 開催しました！(その1)

11月8日、工務部会は「第1回 電力関係職場意見交換会」をWEBも含めて13名の参加で開催しました。主に「墜落事故」「伐採・除草に関わる問題点」「専門性を持った社員の育成」について、議論・意見交換を行ってききましたので、一部を紹介します。

【墜落事故】

9月26日、東海道線 国府津車両センター構内で支線基礎新設に従事していた作業員が、擁壁際に置いてあった工具等を運ぼうとした際に、生い茂った草で隠れた斜面に足を踏み出し、河川に墜落した事象が発生をしました。この事象について、議論を行ってききました。

受傷された作業員は2025年9月1日入社、新規入場者教育を2日に受けていました。作業にあたり歩行経路の指定や川への墜落については注意喚起していませんでした。作業員は「草や蔓で足元が見えず、のり面から落ちた」という話をしているそうです。こういったなかで、自分がその場にいたらどうしたのかなど意見を出し合いました。



【出された意見】

- ・この事象については、CSや安全会議で議論した職場もあれば、メールのみの周知で今日初めて知ったという組合員もいました。
- ・9/2の新石橋き電区分所で感電した作業員も入社まもなくに受傷し、新規入場者教育は、どのように行われているのか、教育がパートナー会社・協力会社まかせになっているのではないかと声もありました。
- ・作業についても、歩行通路の危険箇所を周知したり、河川付近で作業するにあたりルールの確認や手続きは行われていたのか、そもそも受傷された作業員が持っていたトンパックは一人で持つべきものなのかなどの意見が出され、作業をするが故に『安全』が、二の次になってはいないかと声もありました。

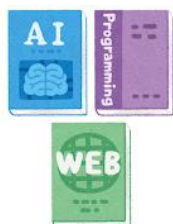
こういった声からも、工務部会から『安全』について、継続的に議論を行っていくことが大切であると一致させてきました。その一方で、会社の設備投資についても管理やその後の修繕を考えずに、設置やつくりやすさで設置してある設備の解消と設備のあり方についても考え、移転などを含めて考えていかなければいけません。よりよい設備にするためにも現場から声をあげていきましょう！！

【専門性を持った社員の育成】

会社は「日本人材ニュース ONLINE」(8月7日)のインタビューで「ジェネラリストだけでなく専門性を持った社員も必要となってきていることを踏まえ、多様な働き方やキャリアの実現を支える仕組み」「社員をジェネラリストとして育成し、職場マネジメントを担うマネジメント職を目指してもらうという運用がメインでしたが、今後、当社は最先端の技術力で商品・サービスをお届けして社会を変える、真の技術サービス産業を目指していくという点も踏まえ、今回の改正では技術職を中心に複線的なキャリアパスを構築」と答えています。

現状の職場はどのようになっているのでしょうか？専門性を持った社員を育成できる環境にありますか？私たちの未来は私たちが切り拓いていかなければいけません。

今後もプロの電力技術者の育成に向けた議論も行っていきます。



安全で安心して働ける職場を未来に残すためにも
J R東労組に結集しよう！！